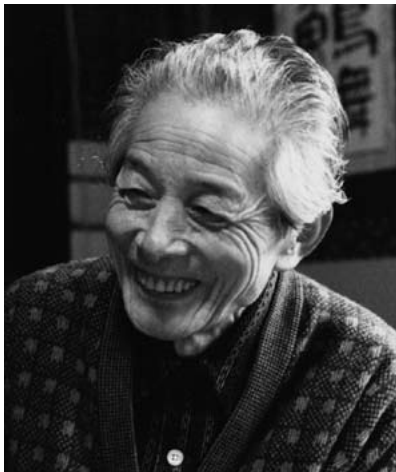




詩人。熊本県玉名郡府本村(現、荒尾市)出身。本名は昂^{たかし}。8歳の時に父親が急逝し、大変貧しい生活の中、母を支える。熊本県立玉名中学校(現、熊本県立玉名高等学校)を経て、三重県伊勢市にある神宮皇學館(現、皇學館大学)に進み、ここで自己表現の手段として短歌を始めた。

皇學館を卒業後は教師の道へと進み、昭和9(1934)年、朝鮮半島に渡って女学校や師範学校で教鞭をとる傍ら、創作活動に打ち込んだ。終戦後、家族とともに帰国、愛媛県に移住して高校の国語教師となった。この頃、真民は「真実の自己とは何か」という深い悩みに直面して自分の心を短歌の31文字に留めることができなくなり、41歳のときに短歌と決別、詩誌『ペルソナ』を発刊して詩の世界へ入った。また、時宗の宗祖・一遍を敬愛し、その信仰心から53歳以降42年間にわたり、一遍の念仏札を

配る賦算^{ふさん}に準^{なぞら}えて、個人詩誌『詩国』を千数百人に毎月無償配布した。真民の紡ぐ詩はとても解りやすく、弱者に寄り添い、癒しと勇気を与えるもので、様々な立場や国の人々に愛された。特に代表作「念ずれば花ひらく」は多くの人々の共感を呼び、その詩碑は海外も含めて700基以上建てられている。仏教伝道文化賞、愛媛県功労賞、熊本県近代文化功労者賞など受賞多数。

略 歴

明治42(1909)年1月6日	熊本県玉名郡府本村で生まれる。
昭和2(1927)年	神宮皇學館入学。学内発行雑誌に、「真民」の名で短歌を投稿し、掲載される。
昭和9(1934)年	新設の全羅南道順天女学校の教員として朝鮮に渡る。
昭和20(1945)年	官立全州師範学校勤務中に終戦 朝鮮より引き揚げ、故郷熊本に帰る。
昭和21(1946)年	愛媛県に移住、第二山下高等女学校(現、県立宇和高等学校三瓶分校)教員となる。
昭和25(1950)年	個人詩誌『ペルソナ』を創刊し、短歌生活に別れを告げる。
昭和26(1951)年	最初の詩集『六魚庵天国』を発行
昭和28(1953)年	杉村春苔に会い、この邂逅が大回心となる。
昭和37(1962)年	詩誌『詩国』(月刊)を発刊
昭和42(1967)年	新田高等学校の講師となり、砥部町に居を定める。
昭和45(1970)年	「念ずれば花ひらく」第一号碑が、京都市北区鷹ヶ峰「常照寺」に建つ。
昭和49(1974)年1月	愛媛新聞賞(文化部門)受賞
3月	新田高等学校を退職
昭和55(1980)年6月	第4回正力松太郎賞受賞
平成元(1989)年11月	愛媛県教育文化賞受賞。砥部町文化功労賞受賞
平成3(1991)年	仏教伝道文化賞受賞
平成11(1999)年3月	愛媛放送賞受賞
11月	愛媛県功労賞受賞
平成15(2003)年	熊本県近代文化功労者賞受賞
平成18(2006)年12月11日	砥部町において97歳で永眠

(写真提供：坂村真民記念館)

〈関連図書〉

- ・坂村真民『坂村真民全詩集 全8巻』大東出版社 1985年~2007年
- ・『えひめ 人 その風土』愛媛放送株式会社 1986年
- ・えひめりビング新聞社『坂村真民記念館公式ガイドブック』えひめりビング新聞社 2012年

〈主な収蔵資料〉…(P228~229, 148~149)

〈ゆかりのある場所〉…(P316, 210)

〈関連施設〉…坂村真民記念館

〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南705 TEL: 089-969-3643